opusdei.org

無原罪の聖マリアへ の9日間の祈り―4日 目

黙想のテーマ:「全ての人の ゆるし」「悲しみの恵み」 「神の慰め|

1日~3日目の黙想

全ての人のゆるし

悲しみの恵み

神の慰め

聖家族の生活でのイエスも、他の家 庭と同じように、特に幼年時代に、 慰めてもらう必要があったことは確 かです。ですから、主が「悲しむ 人々は、幸いである、その人たちは 慰められる」(マタイ5・4)、と仰 せになったとき、かつての御母の姿 を思い出しておられたことでしょ う。聖母は様々なとき主に同伴され ました。今、その全ての子どもたち にも、慰めをもたらしておられま す。この4日目には、マリアが、何 らかの形で全ての人の罪の赦しを願 う場面、すなわち、御子の奉献とご 自身の清めのため神殿に登られた所 を考察することができます。

マリアとヨセフは幼子イエスを抱いてエルサレムに到着しました。誕生から40日が経ったので、長子と母親の奉献の務めを果たすために神殿に向かわれたのです。実は、マリアに

はこの務めの義務はなかったので す。無原罪だったのですから、清め の必要な罪は何もありません。けれ ども、私たちに同伴し、私たちが犯 した罪を悲しみ、その苦しみで御子 の奉献に一致することを学ぶため、 そうされたのです。聖家族は、単に 既定の務めを果たすために神殿に行 くのではありません。全ての人の罪 の赦しをお願いするため、この世に 必要ないつくしみと慰めを嘆願する ために行かれるのです。聖マリア は、神に逆らわないことだけで、満 足なさいません。全ての男性と女性 一彼女の全ての息子たちと娘たち一 が、神的な愛の幸せを見つけ出し、 誤りに陥ったり、罪の苦しみを味 わったりすることのないようにとお 望みなのです。

聖ホセマリアは「自分の罪の赦しだけをイエスにお願いしないように。 あなたの心だけで…、主をお愛ししないように。イエスに対する過去と 現在と未来の…、全ての侮辱について、全ての侮辱についるとれるの、イスを誰にするの、イスをでいて、これをでした。ないないでであるというでは、私としいのでは、ないないでは、いいののででである。というには、ないないでは、ないないでは、ないないでである。というには、ないののででである。というにないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのででである。

神殿でシメオンと呼ばれている老人に会いました。彼は、幼子を腕に抱き、「イスラエルの慰め」(ルカ2・25)になる方に出会う幸運に与ったのです。事実「キリストの全生涯における神の国の伝道は、慰めの務めでした。貧しい人たちへの明るいメッセージ、抑圧されている人たち

シメオンは、イエスの両親を祝福した後でマリアに向かって言いました。「御覧なさい。この子は、イちニアエルの多くの人を倒したり立ちらせたりするしるしとして定められています。一あなた自身も剣で心を刺し貫かれます一。多くの人のでにある思いがあらわにされるためで

す」(ルカ2・34-35)。教会の母であられる聖マリアは、私たちを、他者の苦しみに同伴し、それを自分に同伴して心を通わせるようにとといます。そうするとしてださいます。そうするとは神の慰めに変わります。おたちのも、私たちの周りに慰めたちのれ出るように、神ご自身が私たちのれ出るように、神ご自身が私たちのです。

主は、あわれみを示すため人を頼り にされます。エルサレムが破壊され たとき、神は次のメッセージを預言 者に託されました。「慰めよ、わた しの民を慰めよと、あなたたちの神 は言われる。エルサレムの心に語り かけ、彼女に呼びかけよ。苦役の時 は今や満ち、彼女の咎は償われた、 と。罪の全てに倍する報いを、主の 御手から受けた、と| (イザヤ40・ 1-2)。そして、母親にたとえられ ます。「母がその子を慰めるよう に、わたしはあなたたちを慰める。

エルサレムであなたたちは慰めを受ける」(イザヤ66·13)。

私たちが他者にできる最上の慰め は、預言者がしたように、神はいつ でも私たちをゆるしてくださること を思い出させることです。神は「わ たしたちを罪に応じてあしらわれる ことなく、わたしたちの悪に従って 報いられることもない」 (詩編103・ 10)と、詩編作者が述べています。 こうして、赦してもらえる希望があ るので、苦痛の最中でも、悲しみは 喜びに変わります。これは、シメオ ンの予言が成就されたカルワリオ で、無原罪のマリアに起こったこと です。十字架上の御子をご覧になっ たとき、主と共に世界中の全ての反 逆に苦しまれました。しかし、同時 に、聖母の現存は、ヨハネと他の婦 人たち一また、私たち―に慰めを与 えます。私たちの視点を主の復活に 向けさせてくれるからです。それ で、泣く人は幸せ、と言えるので

す。なぜならマリアは、御子が罪と死にうち勝ったことを思い出させ、彼らを慰められるからです。

[1] 聖ホセマリア『道』402番。

[2] 聖ヨハネ・パウロ二世、1989年8 月13日。

[3] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年2月12日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-mugenzai-kokonoka4/(2025/12/16)